

4 月は別れと出会いの季節

4 月は別れと出会いの季節です。皆さんにとっては、どのような別れと出会いがあったのでしょうか？

私は 3 月末で東日本大震災・原子力災害伝承館の非常勤職員を退職しました。お世話になった職場の人達とは、分かれることになりました。その一方で、無職の年金生活者になったので、新しい出会いはありません。時間はたつぷりとありますが、お金の方は心配です。

一人で孤独なこともあって、何人かに声を掛けたら、今年は 4 組の友人が福島へ来てくれました。一緒に食事をして、桜や被災地を案内しました。来てくれた友人たちの感想は、①食事が手造りでおいしかった。また、民家の建物や庭がきれいだった。②桜の花が満開だった。夜ノ森の桜並木を見ることができた、等々の感想で、③帰還困難区域や中間貯蔵施設を見て、被災地が復興していないことが良くわかった、との感想は少ないです。

福島の今年の桜の開花は、4 月の中旬になりました。特に会津地方では、長かった冬がやっと終わって、待ちに待った春がやっとやって来た、との感慨があります。また、夜ノ森の桜並木は、一昨年の 3 月に帰還困難区域の避難指示が解除されました。11 年間も桜の木の手入れはされていませんでしたが、今年も一斉に満開になりました。人間の過ちで起こした原発事故に対しても、桜の木や自然の回復力はすごいなあと思います。

今年も双葉郡各地の桜見物へ出かけました。2・3 年前みたいに、一日中車で桜を見に行くことも、しんどくなりました。

福島では、どこへ行っても桜が満開なので、地元の人には当たり前になっていて、あまり関心が少ないようです。桜の有名な所では、ほとんどの見物者は外から来た人たちです。また、地元に戻っている避難者が少ないからかもしれません。そして、福島ではどういうわけか、花見で飲み食いや宴会をしている場が少ないです。コロナの影響や放射能とも関係があるのかもしれませんが。

4 月は新入生のピカピカの入学式です。双葉郡は原発事故の避難によって、生徒の数は大幅に少なくなりました。浪江町でも 6 つあった小学校が 1 つに統合されました。子ども達はスクールバスで登校しています。片道 50 分かかる地域もあります。また、川内村や大熊町では、こども園（保育園）と小学校・中学校が一つの校舎になりました。小中一貫教育とのことですが、要は生徒が少ないからです。利点は、生徒が皆なで給食を食べたり、運動会や学芸会も一緒にしたりして、学年に関係なく、生徒達が交流することができます。

4 月 2 日の新聞では、役場や会社の入社式の記事が紙面を飾りました。今年採用された若者の多くが、被災地だから福島県の役場や会社へ就職を希望した、との記事を読んで、近頃の若者も捨てたものではない、と感じました。いつまでも初心を貫いてもらいたいものです。



【牛も花見一蛭田（ひるた）牧場（檜葉町）】（2024年4月15日撮影）



【請戸川の桜堤（浪江町）】（2024年4月12日撮影）

◇是非、福島へ来てください。被災地を案内します。

携帯：090-5300-4664

メールアドレス p-mia08@outlook.jp